２０２１年 Ｗｉｎｔｅｒ　　No.１４８

みくに

＜ヤギとわたし＞

社会福祉法人　みくに園
障害者支援施設　みくに成人寮
ＴＥＬ：(0879)68-3104　ＦＡＸ：(0879)68-3920
〒761-4661　香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
ＨＰ：http://www.teshimamikunien.com

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

（ローマの信徒への手紙　１５章１節）

『ずっと大切なもの』

１番館主任代理　　大西　紗央里

この度初めて巻頭文を書くことになり、私が働いてきた１０年を振り返ってみました。今まで大きな変化なく流れてきた日々は昨年、新型コロナウイルスの影響で大きく変わりました。みくに園でも中止になるイベントが多くあり、利用者にとっても職員にとっても我慢の日々が今も続いています。そんな中、みくに園にとって変わることなく在り続けるものとは何だろうか、と考えることがあります。

一番に思い浮かんだのは、ヤギの存在です。みくに園に初めてヤギがやってきてから１２年の月日が経ちますが、今や利用者にとっては欠かせない存在になりました。ある利用者は、裸足で港まで歩いて行ったり、他人の家に入ったりと、心配な行動が続いていました。そこで、その利用者が動物好きだったこともあり、毎日職員と一緒に小屋までヤギを見に行くことにしました。ヤギのことがとても気に入ったその利用者は、以後落ち着いて過ごすことができるようになり、職員と一緒にヤギを見に行く事が日課となりました。また、世話をする事が生きがいと言えるほど、ヤギが大好きな利用者もいます。毎日欠かさず様子を見に行き、ヤギの赤ちゃんが生まれた時には名前を付けてくれました。「私が名前を呼んだら返事するんや！」と得意げな表情で話すその利用者はみんなから親しみを込めて「ヤギのお母さん」と呼ばれています。すっかりみくに園の一員となったヤギをこれからも大切に育てていきたいと思います。

他にも、いちご栽培や菓子工房、音楽療法やアート活動など、利用者にとってずっとここにあるものがたくさんあります。変わってしまった生活を悲しむのではなく、積み重ねてきた場を大切にし、継続していきたいと思います。今年も職員一同力を合わせて頑張りますのでよろしくお願いいたします。

クリスマス会をリモートで開催

例年なら、１番館のホールに皆が集まり、歌って踊って楽しくお祝いするクリスマス会。しかし、昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、初めての試みとして、リモートによるクリスマス礼拝を実施した。来客も福田牧師夫妻のみとし、蜀台の前には手作りのシールドを設置した。各棟でも密を避ける為、間隔を空けて椅子を設置し、常に換気を行い、感染防止対策を徹底した。当日は１番館での礼拝の様子を２、３番館に配信した。何日も前から準備していたので、当日は問題なくリモート配信を行うことができた。いつもと違うクリスマス会ではあったが、利用者も落ち着いて参加できていた。賛美歌も大きな声で歌うことは出来なかったが、一人一人が心の中で静かにクリスマスをお祝いすることができた。

礼拝後の食事会では、厨房職員が腕を振るってくれたクリスマスメニューが並んだ。皆、笑顔で大きな骨付きチキンにかぶりついていた。デザートはみくに園で採れたブルーベリーを使用した手作りムース。大満足であっという間に完食していた。食事会も密を避ける為、利用者と職員は別々に行い、静かな食事会となった。

例年通りとはいかなかったが、皆が毎年楽しみにしているクリスマス会を無事開催することができて良かった。今年のクリスマスは、皆で楽しくお祝いできるように願っている。

（古川　記）

２番館

１番館

３番館

食べられる幸せ

１年前、食事の提供に新しいシステムを導入することとなった。部分的な委託といってもよいかもしれない。調理済みの食材を温めて提供する。それにより、まだ経験の浅い職員でも安定した食事が提供できる。あまり多くを期待していなかったが、思わぬ恩恵を受けることとなった。

利用者の中には消化器官や嚥下機能に問題のある方がいる。今までは普通食から消化の悪いものを取り除き、刻みにして提供していた。それでは、症状の改善は見られず、むせながら完食できないときもあり、楽しいはずの食事は苦しい時間となってしまっていた。しかし、新しいシステムは、治療食（エネルギー制限・減塩・たんぱく質制限）だけでなく、噛む能力・飲み込む能力に応じた食事が用意されていた。

その中でも特に効果的だったものが「ソフト食」といわれるもので、食材の形はそのままで、舌で押しつぶせるほど柔らかい。普通食に見劣りすることもなく、楽に潰せスムーズに飲み込めるのだ。ソフト食の導入により、大きく改善とまではいかないまでもむせる回数は減り、何より完食できるようになった。完食できることが利用者にとって何よりも大切ということに改めて気づかされた。

手作りが一番という固定観念が、超高齢化社会となり、食に関する問題が今までより複雑になっている中、かえって利用者を苦しめてしまっていた。介護食も様々に進化をとげ、簡単に取り入れられ、機能性に富んだ商品が世に送り出されている。我々も古い考えに囚われず、新しい一歩を踏み出し、そういった商品も取り入れながら、利用者に寄り添った食事を提供していきたい。また、行事食にも力を注ぎ、食の楽しみを増やすとともに、スタッフのモチベーションも高めていきたい。毎年メインイベントであるクリスマスは利用者だけでなくスタッフも楽しみにしている。あれやこれやと知恵を出し合い奮闘する。楽しみながらも真剣に取り組む姿勢は美味しい料理を作り出す基本ではないだろうか。生涯で食事の回数は決まっている。その１食１食を大切にすることで、一人ひとりの笑顔を大切にしていきたい。

（管理栄養士　近本）

こちらがソフト食。
蓮根や里芋、人参などの根菜もしっかり形があり、舌でつぶせる柔らかさです。

＜クリスマスメニュー＞

カルパッチョ
シーザーサラダ
パンプキンスープ
ローストチキン
クロワッサン
ブルーベリームース
ジュース

＜正月御膳＞

お節には今年も幸多き１年となりますように縁起の良い品が並びました。お雑煮には大きな白餅２個とあん餅１個が入っています。

＜年明けうどん＞

桜の香りがする麺と、海老とほうれん草と卵で彩り豊かなメニューでした。

みくにえんのアート活動

タイトル文字：繁朋宏

公民館まつり 2020

米田さんと河津さん

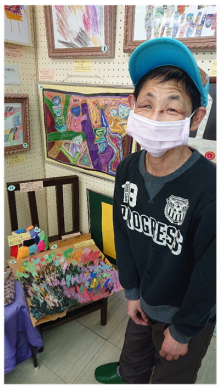
昨年11月16日～20日の5日間、豊島公民館で「公民館まつり」が開催され、みくに園からもアート活動メンバーの作品を出展しました。

3番館の皆さんも力作ぞろいでした！

豊島の皆さんに作品を見ていただき、わたしたちの活動のことを知っていただく良い機会なので、作品の下には一枚一枚小さな説明札を掲示し、「普段、どのように制作に取り組んでいるか」「この作家が大事にしていることは何か」などを書き添えました。

希望するメンバーは公民館を訪れて楽しく展示を見ることができたという報告を聞き、設営を頑張った甲斐があった！と、私もとても嬉しかったです。ご尽力いただいた皆様に感謝いたします。

（吉野　記）



斉藤宏一さん

樋口さんと岡本さん（後ろに米田さん）

2番館トリオ
（左から室崎さん、繁さん、斉藤幸浩さん）

心に響く二胡の音色

利用者さん達の健康維持のために鍼灸師の増田浩一氏が毎週２日みくに園に来て下さっている。

音楽が好きな氏が、中国の伝統的な擦弦楽器である『二胡』をクリスマスに演奏して下さった。ニシキヘビの皮で覆われた２本弦の珍しい楽器を食い入るように見つめる人、じっと耳を澄ませて聴き入る人。静寂の中でクリスマスソング「きよしこの夜」の演奏が始まり、二胡独特の哀愁のある音色が響いた。続いて「涙そうそう」「もののけ姫」「蘇州夜曲」等、各棟の利用者さんの好みや年代に合った曲を奏でて下さり、会場からは大きな拍手と共に「うまいなあ！」の感嘆の声。澄んだ美しい音の向こうに中国の壮大な山々を垣間見ることができて、心が癒される時間であった。

コロナ禍の今、生の音楽に触れる機会が少ない私達にとって何よりのクリスマスプレゼントとなった。

（音楽療法士　山田）

日本生命労働組合よりいただきました

日本生命労働組合よりベッドサイドテーブルとやわらか亭カレーライスをいただきました。食事の場面で役立てています。ありがとうございました。

編集後記

毎年、保護者の方から水仙の球根をたくさん送っていただいています。昨年もいただき、さっそく花壇に植えました。年が明けてしばらく経った頃から少しずつふくらみ始めた小さなつぼみたち。コロナ禍にあっても、いつもと同じように元気に育とうとしている植物の姿に励まされています。まだまだ、以前と同じようにはできないこともたくさんありますが、前向きな気持ちで日々を過ごして行きたいと思います。

＊みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

Ｅ-mail:kgk03317@nifty.com　　FAX:0879-68-3920

みくにだより編集部：（148号　2021年1月発行）